

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 生涯学習課

会議の名称	令和5年度 第1回茅野市社会教育委員の会議		
開催日時	令和5年5月25日(木) 午前10時00分～午前11時40分		
開催場所	茅野市役所 7階 704・705 会議室		
出席者	<p>矢崎美知子委員(委員長)、大作公明委員(副委員長)、市川純章委員、北澤孝郎委員、竹内郁子委員、中村正幸委員、宮坂章委員、矢崎智義委員</p> <p>山田利幸教育長、上田佳秋生涯学習部長、五味正こども部長、竹内こずえ生涯学習課長、武居直樹生涯学習係長、小坂秀輔生涯学習係主査、畑中紀之教育指導主事、伊藤利恵文化芸術担当、両角勝元中央公民館長、両角香代教育係長、今井祐子家庭教育センター館長、五味一男図書館長、北澤ゆき子図書館係長、小池岳史文化財課長、柳川英司文化財係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香博物館係長、河西茂廣スポーツ健康課長、松田剛史スポーツ健康係長、阿部香織こども課長、小平剛史こども係長</p>		
欠席者	<p>小倉誠司委員</p> <p>山科哲尖石縄文考古館係長、鶴飼幸雄神長官守矢史料館長</p>		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
生涯学習課長	<p>1 開会</p> <p>皆さん、今日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。私は、本日の進行を務めさせていただきます、生涯学習課の竹内と申します。どうぞよろしく願いいたします。それではただいまから令和5年度第1回茅野市社会教育委員の会議を始めさせていただきます。</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>社会教育委員さんにつきましては、社会教育法の規定により、教育委員会が委嘱することとなっています。これより、山田教育長から委嘱書をお渡しさせていただきます。順番に席を回ってお渡しさせていただきますので、その場でご起立いただき、お受けいただきたいと思ひます。</p>		
教育長	<p>3 教育長あいさつ</p> <p>今日はお集まりいただきありがとうございます。皆さん、社会教育のすぐれた見識と豊かな経験をお持ちの方です。これから茅野市の社会教育についてご提言、また、ご指導よろしく願いいたします。いよいよコロナも第5類になり、市民の皆さん大変活動的になっています。その中で私たち、市民の皆さんのやる気に応じていかなければいけないと思ひます。先日、高齢者大学の入学式がございました。新しい新入生が14人、それから学生さん</p>		

<p>生涯学習課長</p>	<p>が全部で 66 人。教養講座が 7 講座、運動講座が 1 講座、技能講座が 7 講座で、秋まで皆さん高齢者大学の中で学びを積み重ねていただきます。本当に私たち、学ぶ楽しみや喜びを常に基本的なゴールにしながら、いつでもどこでも何でも、この学習環境を整えて参りたいと思います。本日は、全体計画とそれから各事業の計画になりますが、どうかご精査いただき、貴重なご提言よろしくお願ひいたします。1年間よろしくお願ひいたします。</p> <p>4 自己紹介</p> <p>5 正副委員長の選出について（正副委員長あいさつ） 正副委員長の選出をさせていただきます。正副委員長の選出については、どのようにすればよいかお諮りします。</p> <p>（意見なし）</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>事務局案がございますのでよろしいでしょうか。 委員長を矢崎美智子委員に、副委員長を大作公明委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>（異議なし）</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>矢崎委員と大作委員は正面の正副委員長席へ移動をお願いします。また、委員長さんにはこのあとの会議の進行をお願いします。 では、会議に先立ちまして、就任のご挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
<p>委員長</p>	<p>ただいま、委員長を仰せつかりました矢崎美知子と申します。微力ではございますが、よろしくお願ひいたします。コロナが5類に移行されて、社会教育施設を皆さん利用されて、活動が活発になって参りました。社会教育活動は、社会との繋がりが感じられ、また心豊かに暮らせるとても大切な活動だと思っております。これからもその活動が充実されますよう、委員の皆様には、貴重なご意見やご協力をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>副委員長</p>	<p>ご指名いただきましたので、副委員長を務めさせていただきます。昨年、社会教育委員をやらせていただきまして、様子がわかって参りました。こんなことを社会教育としてやるということがわかって参りましたので、今年はそのをお返しする、今まで勉強させていただいて、教えていただいた。何か意見がしっかり言えるような形で進めて参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>6 審議会の公開について 審議に先立ち、審議会の公開について事務局から説明を行う。 ～資料1の説明～ 本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行う。</p>

	<p>非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とする。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開する。</p> <p>(承認)</p> <p>7 会議事項</p> <p>(1) 社会教育委員の役割について 資料に基づき、事務局から説明を行う。</p> <p>(2) 令和5年度社会教育委員年間事業計画について 資料に基づき、事務局から説明を行う。</p> <p>(3) 社会教育関係団体への補助金の交付について 資料に基づき、事務局から説明を行う。</p> <p>委員 補助金は、前年度同様という金額でしょうか。</p> <p>生涯学習係長 金額につきましては、スポーツ協会の金額が上がっております。</p> <p>委員長 以上よろしいでしょうか。それでは、5年度の社会教育関係団体の補助金につきましては承認いたします。</p> <p>(4) 令和5年度茅野市社会教育に関する計画及び課題について 資料に基づき、各課・施設から一括説明を行う。</p> <p>委員 大変充実した事業計画でありがたいなと思っております。今日は別な角度から計画を考えていけないだろうかと思いました。社会教育委員の委嘱を受け、16年ぐらいやってきました。いろいろ見てきて、もう少しあってもいいのかなと思うところがあります。それはまちづくりとか人づくりというのが、生涯学習とかで言われていて、特に茅野市の生涯学習指針に少子高齢化、人口減少社会、財政がコロナで、非常に大変な中でやっていけないといけない、というような課題意識が書かれています。そういうことに対して私たちがこの豊かで平和に暮らしていくために勉強しなければいけない。あと、例えば、パソコンの使い方を覚えて自分の授業に入れ、効率化を図ろうということも社会教育です。生涯学習ですということが国からのパンフレットにあります。今の人口減少社会の中で一つDX推進ということを言っております。総合計画を立てる時にも、地域の事業者を引き込み、市民へどんどん普及していかなければいけないということが掲げられていました。それをどこで勉強していくのか、学校教育と社会教育が茅野市の住民市民の学んでいただく機会を作る。組織的教育活動とすると社会教育の中で扱っていくのだろうなということも思いました。</p> <p>他に問題意識を並べるとDX推進だとか、ここ何年間かは、財政難で今ま</p>
--	--

でのことはできない、市長も言うように市民にも痛みを伴ってもらおうとか、それに対して市民も勉強して、どういうことが起きているのかを理解して、知恵を出して、貢献する活動をするのも、勉強すればできるのではないかなと、今のままだと、何で減らすんだ、もっと増やせということで、してくれという感じの動きになりがちなのは勉強しなくてはいけないから。また減らすだけでなく何か工夫ができるはず。そういったことも、勉強なんじゃないか、それは誰がどうやって組織的勉強をしきれるのかなと考えたときに社会教育なのではないのか。その中でも生涯学習の範囲かな。確かに社会教育は、日本の法律で、実は社会教育の勉強をしていますと、場所を整備しろということを書かれているが、何のために何を勉強しろというのは、書かれていない、そこに何をを入れていくのかということでは茅野市が独自で出していけるのではないかなと思ひまして、そういったことが何かテーマの目的に入っているのではないかな。そんなようなことを感じました。

それをテーマにするのは、もしかしたら総合計画かもしれないし、教育大綱なのかもしれませんがもう少しその何のためにということを経営整備だけでなく、自由に主体的に学べる場所の場所を用意しようだけでなく、テーマのことも考えていいのではないか、今が平和で豊かに見えるが、目の前にかなり人々の協力と知恵を出さなければいけない、理解もしなければいけないときに、そういう学習の機会はどこかなということも、扱えないかなと思ひました。

それで、DX 推進、茅野市も今、デジタル田園特区と健康特区を皮切りに、都市 OS とか整備していますよね。でもそんなことを市民が知らなければ活用の知恵も出てこないわけです。それは社会教育ではないのだろうか。何か組織的教育の機会として、テーマに入れてもいいのではないかと思ひました。

今そういった私たちの平和で豊かなまちをつくるためのスキルを身につけるとか、教養を身につけるところの面も少しテーマ性のあるものを出してもいいのかな。もしかしたらこれが、この計画で見ると、生涯学習の中のテーマになっていくのかな。だから社会教育で茅野市がどうするというのではなくて、もしかしたら社会教育、茅野市の社会教育はここを考えていくというテーマを打ち出してもいい、そんなことをずっと考えてきました。

最初の頃はここに出されているコンテンツを市民の目から専門家の目から評価する。活動も関わってきて、抱えている問題を解決する市民力はどうやってあげていくのだろう。そういったことを考えると、社会教育、生涯学習で考えていいのではないかと思ひました。

それで、シチズンシップ教育というところの面が落ちているのではないか。少子高齢化人口減少社会に対応するのにどうするのか。ただそのシチズンシップ教育も社会の一員としてどうするのかという意識はどこで育てるのか。あるいはツールとしての DX 推進、財政に対してどうしていくのかということを知らないとまずいだろう。そんなことを何かもう少し問題意識のテーマとして出せるような計画が立てられるといいのかな、そんなふうに感じました。

生涯学習部長

具体的には茅野市の教育大綱の基本方針の3点目には、その社会学習機関

委員

の充実と場の提供という書き方をして、ここが茅野市の生涯学習が担う部分ということで、掲げさせていただいてはございますけれど、先生おっしゃるような、もう少し、地域住民、身近な問題、今、先生がシチズンシップという言葉もありましたし、また、DX 推進、そして茅野市の行財政をいかに市民に広く知っていただくのか、また勉強していただくのか、そういった機会の提供も、市長部局とともに、教育委員会の方も一緒になって連携をして、今後考えていかなければいけないと考えております。いただいた意見を参考に部内でも、庁内でも検討をさせていただきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

先生の意見と全く同じですが、私は、16 年間ではないですが会議に出させていただいて、会議から帰ってから何かこう物足りなさを感じています。何なのだろうかと一生懸命考えてみましたが、一つは、先生おっしゃるように、「市民の意欲に応えるとか、目標に向かって努力する人を支援していく。」という「待ち」の姿勢だと思います。もう少し「攻め」の姿勢があってもいいのかなという気がします。これだけの方々が集まって、時間を使って、お金を使って、エネルギーを使ってやっていることですので、待っているだけではなく、こういうふうにしていきたいというような、茅野市がこういうふうにもっていかうという思いがあってもいいと思っています。

先ほど話が出ましたが、大事な点は、各事業を考えるとときに、社会教育はこうあるべきだということに戻るのか、今、市民の課題が何なのか、茅野市の課題が何なのかという視点でものを見るか、と言う点だと思います。各部署の方々は一生懸命やってらっしゃって、それに対していろいろ言うことではないのですが、足りないのは、おそらく、生涯学習部なり、もう少し上の部署の、社会教育に対するビジョン＝どういったビジョンを持って社会教育をやっていくのか、それが大事な話になってくるのではないかと思います。

なぜそんなことを考えたかという、(私は、図書館の動向に関心があり見ているのですが、) アメリカに IMLS (Institute of Museum and Library Services) という組織があります。博物館図書館サービス機構というのですが、5 年ごとにビジョンを出しています。2012 年からは、「学びの国の創造」、2018 年からは「地域の触媒 (Community catalyst)、という言い方をしていますが、今アメリカ型のコミュニティが崩壊をしてくいて、それを問題意識として持っています。それに対して博物館、図書館で何ができるかを考え、各博物館図書館の行事に予算をつけていくのですが、そんなふうに、各組織を誘導していく形で進めています。

今、茅野市の市民が抱えている問題が何なのか。例えば、隣組でもそうですが、組長のなり手がいない、年寄りが多くだんだん隣組の軒数が減っていくといった身近な問題があると思います。

本来、社会教育は (公民館もそうですが)、地域の課題の解決が主眼で、解決できる、考えることができる市民を育てていくということが目標だと思います。各部署は一生懸命やっているのだけど、それを統合するビジョンがないので、全体としてバラバラなイメージを受けますし、例えば計画を見たときにわくわく感がないというか、来年はこれやるから楽しみだなというようなことがあまり見受けられません。それは各部署の責任ではなく、やはりビ

教育長	<p>ジョンを作る側の責任だと思います。</p> <p>その点アメリカは、すごくうまいです。市民にアピールできるし、これやりますよと各部署が、いろんな方針を考えるので。ぜひ何か先生の意見も踏まえて、考えていただければと思います。</p> <p>2人の方の言われた通り、まったくその通りです。茅野市の社会教育が生まれたのは1960年代前半。その時はものすごいねらいがありました。まちづくり地域課題解決。それをずーっと頑張ってくる中で時代が変わり、新たな時代を迎えている中で、今一度、私たちの願いは何か。行政側のねらいは何か、市民の方々の願いは何かということ、本当に整理し直していく必要があると思います。</p> <p>今委員が言ったように、図書館、あれ使えるのはものすごい願いですよ。じゃあ今これからの図書館をどうしていくか願いを考えたときに、様々な問題はあるけれども、例えば県立図書館のデジタル化っていうのがあるけれども、あれは進めていくのは間違いないけれども、それを一歩超えた願いを作っていくかなきゃならない。私はそんなふうに思います。</p> <p>それで、もう一度、今年1年間は、行政側の願い、あるいは市民の方々の願いというものを整理し直していく必要があるのではないか。今のところ市長の考えは、生涯学習、まちづくりという点で公民館活動を中心とした新たな地域課題の解決ということ、それを市長が考えているわけですが、それを踏まえる形で、もう一度、全体を整理し直して考えていく、そのためのご意見を伺える会にできたらと思います。</p>
委員	<p>私は学校教育に関わっている、義務教育の段階の者ですから、やはり現在各小中学校にコミュニティスクールという、地域の皆様と一緒に学校を作っていく仕組みがございます。学校と社会教育を結びつける非常に大事な、組織であります。先ほどから話が出ております通り、ここ2、3年ほどコロナでなかなかその機会が少なくなってきてしまったわけですが、これ以降、扱いが変わったということ、どのように回復させていくかというか、新たに構築していくかというところが一つ課題になるかと思っております。やはりこれからの社会人を育てていく時に、やはり地元の皆さん、あるいは、地元のことに関わりが、地元と関わりを持っていくことによって、よりその地域を愛し、その地域を支えていく、時代の担い手を作っていくことになるのかな。従って学校の方も、そういうことを視野に入れながら、教育活動を展開する必要があるのかなと思っておりました。</p>
教育長	<p>具体的には、北部中学校、東部中学校で子どもたち生徒会を中心とした地域への関わり地域づくりというのを、全く今までとは違った発想から取り組み始めています。広い意味での社会教育、お互いに学校教育と社会教育が響く関係を作りたいと思います。</p>
委員	<p>北部中学校の生徒会が、公民館活動に関わりたいというような提言もありました。子どもたちに期待したいと思います。</p>

委員	<p>私事ですが、民生委員や児童委員を今やらせていただいて、読り一む in ちのにも所属させていただいたり、いろんな形で、いろんな問題があることは承知しています。今、委員さんがおっしゃった大切なこと、市民が、教育長もおっしゃったんですが、行政の願いとか、市民の願いとかそういうことがわかって、市民がこういう願いがあるんだよということがわかってくれば、それに対して、どのような方法でということも考えていかれるので、私も初めて社会教育委員になりましたので、いろんな形で地域、学校、子どもたちにおいても、また私も高齢者でございますが、いろんな勉強をさせていただいて、社会教育委員として社会のために、少しずつ貢献ができればと思っております。</p>
委員	<p>私、大阪で生まれ育ちまして、大阪の市内の家がいっぱいのところですが、こちらに参りました。そういう意味では皆さんの県民性であるとか、皆さんの市民の意識であるとかというのが、なかなか最初は見えなくて4年がたちました、やはり随分そういう意味では、大都会と違うというふうな県民性といえますか、ものの考え方から随分違うものだなというようなことで驚いたり、すごい素晴らしい自然環境と子どもたちのマナーという点で僕は来た時にびっくりしました。横断歩道を小学生が渡ろうとしている時に車の方が止まる。ニュースによると。全国で一番止まってくれるみたいな、必ず渡られた後に深々と小学生がお礼をしてくれる。あれはもう本当に衝撃的な場面でした。どうすれば大阪のやんちゃくれは、赤でもシューっと渡って、ベーとか言いながら帰る、全てではないですが、そんなところから参りました、本当にカルチャーショックです。</p> <p>また、我々私学として、どんな切り口で貢献できるのかなというようなことを思っています。コロナが開けて、やはりキーワードは、交流ということが今まで遮断されてきたものが再開される、そんな中で、地域の方にいろんな貢献ができればなと考えています。</p>
委員	<p>週3日、夜に子どもたちのミニバスを教えていて、昼間は仕事があり、例えば公民館の講習会、ちょっと興味がわくなとか、でもなかなか出る機会がありません。</p> <p>スポーツ活動において、今、一番熱心にやっておられるのは60歳以上の定年になった方たち、時間がある方たちが、健康増進も兼ねながらスポーツをされておられます。そんな中で、先ほど課長からも話がありましたが、スポーツ施設の老朽化という問題があって、今度はこの時計台の周りをバリケードで止めています。建て直すのはすごいかかるようだし、壊すのもすごいかかるというようなお話を聞きましたが、そこをいかにうまく使いながら、市民活動に影響ないようにしていくのかというところが一番難しいところかなと思っております。私個人としては市で強靱化計画の話を進めていただいて、スポーツ協会としても、その内容に加わりいい提案ができればいいと思っております。</p>
委員	<p>最初に先生方のお話がございます、大変難しい問題だなとまず最初に感</p>

じてしまいました。副委員長就任の最初のご挨拶で何年かやってきた、大分社会教育のことがわかってきたと言ってしまいましたが、まだまだ見識も浅く、本来の社会教育というものが、茅野市でスタートするときには市民生活に役に立つという話。各部署の皆さんに検討してくださって、こういうことやりますよと具体的なお話は目の前にこう見えるわけですが、裏にそういったものがしっかりなければいけない。またあるべきなのかもしれないということについて、改めて認識しました。ちょっと突きつけられたような気もいたしまして、感想です。

今日お話いただいた中のいろいろな事業で、わくわくすることも結構たくさん発表していただいております。特に縄文関係の事業に関して、こんなことをするという発表をお聞きして、実際楽しみだな。わくわくするなと思います。やはりこの社会教育の中で、皆さんの実施方法のところで、例えば家庭教育センターの親が学習したことをみずから企画し、活動する。とか、テーマを自分たちで考えてやっていく、博物館のところでも、そういう進め方で市民研究員が、自分たちの活動したい内容を決めて、勉強していく。市民の中からやりたい、勉強したいことをしていく。そのテーマを自分たちで決めて活動していく。それをサポートすることは、もしかすると、先生に言わせると消極的で、それだけじゃ駄目だよということもおっしゃっています。重要でそれだけでなく、市民のやりたいことをどうやって欲しいかということは、そこから出てくるのかなという気もいたします。最初に何かありきではなく。ボトムアップというか、世の中常に動いております。この中身がだんだんに動いていくのかな。そういうことを集めて、一つの道筋、心になる方針、茅野市のお願いとか方針とか、そういうものも時間がかかりすぎるかもしれない。徐々に出てくるからいたしますし、学習というのはやはり、自分が興味を持っていると、やりたいことについて自分で調べていくことが一番身につくと思いますので、そういったことが随所に見られる。この今日の事業のご説明だと私はとてもいいのではないかなと実は感じていたところでございます。

委員

一番初めの生涯学習部の基本方針ですが、役割としてみずから学ぼうとする市民の意欲に応え、学習の場と出会いの場を提供するという目的を持っていますが、それに沿ったいろんな教育施設の方針、今年目標を皆さん立てていただいて、それに則ってこれからの1年が始まるわけですが、市民の方はやはりそれを楽しみにしていると思います。自分たちが施設を使いながら自分たちの学びができるということは、やはり市民はとても嬉しいと思いますので、今年1年この計画でしっかりと進んでいただいて、市民の方々に満足を得ていただけるような活動ができればと思っております。またいろんな社会教育の根底のような話がありましたので、生涯学習部の方で考えていただいて、ちょっと違った意見、時代の変化についていけるような動きができるような考え方を話し合っただけであればと思います。また何かありましたら、社会教育委員のこの会議を開いていただいて、意見を自由に出していただけるような形があればいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。



委員	<p>社会教育委員の仕事は、実は茅野市の社会教育の計画を立てるといっているので、私は審議委員ではなく、計画を立てる市民になっておりますので、攻めていきます。</p> <p>8 その他 委員に配布した資料及び委員の任期について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社教情報</li> <li>・長野県社会教育委員の手引き</li> </ul>
委員	<p>発言の補足をします。私は別にやっている事業がわくわくしないとか言っているわけではないです。全体として、個々の事業はいいかと思うが、全体としてビジョンをもって、やった方がいいのではないかという話をしているだけです。否定するわけではありません。</p>
委員	<p>足すことばかりで不足感を感じている。こっちはすごく充実しているけどなんかもうちちょっと足りてない。やっぱ何となくこうもやもや感があります。それで社会教育のミッションは何だといろいろ法律とかいろんな条文見ても何も書いてなく、もやもやが解けません。</p>
教育長	<p>今までのやってきたことを私はすばらしいことをやってきたと思います。その集大成であると同時に新たな息吹を切り開いていく。なかなか急にはできませんが、そういう年が変わっていかなければいけないと思います。</p>
委員	<p>さっき言ったアメリカの例ですが、アメリカは図書館のサービスの対象を個人から地域に替えていきました。それは問題意識の違いだと思います。だから、ビジョンの対象も変わってくればサービスも変わる可能性があります。</p>
委員長	<p>これでよろしいでしょうか。閉会の言葉を副委員長お願いいたします。</p>
副委員長	<p>9 閉会 それでは以上をもちまして、令和5年度第1回茅野市社会教育委員の会議を閉会といたします。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">～午前11時40分 会議終了～</p>